

## ハウスを4区分にしてどこに惑星が偏っているか？

<クライアントの人生のテーマや傾向を掴む>

次に出生図の12ハウスを以下のように大きく4つに分類することが出来ますが、この分類はクライアントの行動パターンや傾向を大きく捉えることが可能にします。

12ハウスは以下のように大きく4つに分類されます。

1 自分	2 自分	3 私的	4 私的
12 自分	Myself --- 自分 Partner --- 他人 private --- 私的な public --- 公的な		5 私的
11 公的			6 他人
10 公的	9 公的	8 他人	7 他人

自分を表わすハウス	1室、2室、12室
他人やパートナーを表わすハウス	6室、7室、8室
プライベートを表わすハウス	3室、4室、5室
パブリックを表わすハウス	9室、10室、11室

まず、1室（自分）、4室（私的活動）、7室（相手）、10室（公的活動）という中心があって、それぞれのハウスの両サイドのハウスも同じ4つの分類に当てはまります。

例えば1室、2室、12室の<自分>のハウスですが、1室は自分自身、自分の肉体、自己実現など、文字通り自分を表わし、2室は自分の財産、自分の両親など、常に自分が形容詞として頭に付くような分野です。12室も自分の損失であり、自分の性生活などであったりします。

また3室、4室、5室の<私的>なハウスですが、3室は身近な友人、弟妹、習い事、4室は家庭、家、5室は趣味、創作活動など、自分のプライバシーで行う活動を表わします。

6室、7室、8室は<他人>のハウスであり、活動には相手を必要とします。従って、目的や欲求などの動機づけを相手に頼る傾向が出て来ます。

9、10、11室の〈公的〉なハウスは公的な場所のため、不特定多数の大勢の人間がおり、見知らぬ人との接触などがある配置です。10室を失う9室が仕事を休んだり辞めたりして、寺院への巡礼や旅行を表すようなハウスで、11室は趣味や信条や階級などを同じくする人々との交流をする場所であり、これは仕事の場の延長線上にある社交の場だったりします。いずれにしても公的な場所であり、プライベートは一切なく、不特定多数の人と出会ったり、交流する機会があります。

このような4つのハウスの分類をビリーグラハムの例で検討すると、〈自分〉を表すハウスには惑星が在住していません。(この場合、ラグナは除きます)〈私的〉を表わすハウスには2つ惑星が在住しています。〈他人〉を表わすハウスには3つ惑星が在住しています。〈公的〉を表わすハウスには4つ惑星が在住しています。

### 〈ビリーグラハムの惑星分布〉

自分：なし

他人：3つ

プライベート：2つ

パブリック：4つ

〈自分〉のハウスに惑星が在住していませんので、彼はあまり自己開発や自己実現、自分の資産、あるいは自分の両親とか、あまり〈自分〉を取り囲む身近な家族とか、財産とか、そうしたものにはあまり関心が少ないタイプではないかと思います。自分の身の周りの事柄に対する比重は少ないと言えます。

そして、最も多いのは〈公的〉なハウスへの惑星の分布です。〈公的〉なハウスは大勢の人から自分を隠すことが出来ない舞台であり、プライベートはありません。皆に見られ知られて注目されます。

そのような公的な場所での活動が多いことを表わします。彼の話聞いた聴衆が、テレビ、ラジオを含め、20億人いるということから考えると、やはり、これは納得できる配置です。

そのような仕事量、影響力はパブリックな活動でのみ可能ではないかと思います。

特に10室への惑星集中は社会的使命の大きさを表わすかもしれません。仏陀は蟹座ラグナで10室に惑星集中していました。

一方で、〈私的〉のハウスにも2つ惑星が在住していますが、4室は彼が設立したビリーグラハム伝道協会などの団体を指すかもしれません。これは言わば、彼の事務所であり、拠点であり、彼が最も身近な家族的なスタッフと共に作戦を練ったりする場所で、台所や舞台裏に該当します。

この場所の中はプライバシーが保たれており、大衆から見られる場所ではありません。

従って、もし彼が自分のプライベート教会を所有していればそこも、4室です。

3室は訓練とか努力を指し、弟や妹なども表わしますが、基本的にプライベートな活動を表わします。

そしてもう一つ〈他人〉のハウスには3つ惑星が在住しています。

ですから、他人と向き合って、交流することが多かったと思います。一対一の関係です。契約関係でもあり、これは自分が話をして説得する相手かもしれませんが、対人関係です。

社交場での複数の人間との関係は10室や11室の公的な場所での活動になりますが、一対一の対話や

交流、契約関係などは6、7、8室になります。

そして、ビリー・グラハムの場合、6室に1つ、8室に2つ惑星が在住していますが、6室は他人との争いや敵対関係、そして、8室は他人から支配される関係を表わします。然し、いずれにしても対人関係や契約関係を表わします。

因みに8室に惑星が在住していることについて、ネット上で見つけた以下の興味深い記事が多くを物語ります。

荒野の声 No.29

## ビリー・グラハムとクリントン

7月にニューヨークでビリー・グラハムが最後の伝道集会を開きました。そこで非常に奇妙なことが起こりました。しかし、日本ではそのことは全く報道されていません。デイヴィッド・メイヤー氏のラストランペットニュースレターによれば、それは次のようなものです。

「わが国の最も特筆すべき霊的な盲目と死の実例は最近ニューヨークで開かれたビリー・グラハムのクルーセードである。およそ8万人の人々がグラハムのお話を聞くために集まった。そして彼の15分間の説教の前にグラハムはビル・クリントンとヒラリーに迎えられた。**グラハムはビルとヒラリーの手を取って、ヒラリーを次のアメリカ大統領に推薦した。**グラハムの正確な言葉は次のようなものである。

『クリントン夫妻はすばらしい友人であり、偉大なカップルです。ミスター・クリントンは伝道者とならなければなりません。そして彼の妻がこの国を運営することを許さなければなりません。』ニューヨーク・デイリー・ニュースはビル・クリントンがグラハムの手を取ったとき聴衆は歓声を挙げた(または叫んだ)。**なぜグラハムは浮気者のビル・クリントンがかつてその地位に着いた人々の中でも、もっとも過激なリベラリストであるという事実を無視するのだろうか。グラハムは妊娠中絶擁護団体を支持していると公言しているこの二人に対して、ヒラリーがこの国を運営することを支持し、ビルが福音を語ることを支持したのである。グラハムはこの二人が反キリストの特質の一つであるホモセクシャルとレスビアンアメリカと世界のチアリーダーであることも語らなかつた。グラハムはこのことを良く知っている。しかし彼はクリントンのような政治家であり、いつも最も愛される偽り者なのである。」**

私は驚きもしません。同じ穴の貉同士が肩叩き合っているのだと思います。しかし、グラハムのことを神のように崇めるアメリカや世界のクリスチャンは、これを神からの諭しであると受け止め、ビルとヒラリーを熱狂的に支持することになるのではないかと思います。

これは当然、影の世界政府イルミナティの計画の中にあるのでしょう。こうしてグラハムを通してビル・クリントンの国連事務総長とヒラリーの大統領就任にお墨付きを与えて置いたのでしょう。国連事務総長とは言えないから伝道者といったのでしょうか。実はかつてハマーショルドという有名な国連事務総長は自らを伝道者のように思っていたふしがあります。ビリー・グラハムを単なるキリスト教の伝道師と見るべきではありません。イルミナティの重要な位置にいる人物なのです。

このような、恐るべき罪を犯しているビリー・グラハムは、神の前に出るとき「私は神に忠実に生きてきた、だから平安に満ちているだろう」と言っています。私は驚きあきれて言葉もありません。

(<http://www.ne.jp/asahi/petros/izumi/arano/arano050926.htm> より引用抜粋)

つまり、通常、キリスト教伝統信奉主義者であるビリー・グラハムが、妊娠中絶に賛成したりするリベラルなヒラリー・クリントンを応援することはあり得ないのですが、何故か、ビリー・グラハムはヒラリーを

応援しています。上記の文章は、そのことに疑問を呈する文章です。

ヒラリークリントンは双子座ラグナでラグナロードが天秤座に在住して天秤座惑星集中しており、ビリーグラハムの8室に在住する金星や太陽の表示体となっています。8室は支配者を表わすため、彼は嫌々ながらも、協力を断りきれなかったのではないかと推測されます。上記の文章は影の世界政府イルミナティにも言及しており、やはり、ビリーグラハムが断りきれずに、ヒラリーを応援する契約を取り結んだと思われる内容です。7室が対等で正常な関係だとすると、6室や8室は支配-服従などの問題が生じる関係ですが、いずれにしても6室、7室、8室は他人を表わすハウスであり、他人との関わりが生じてくるハウスです。これらのハウスに惑星が在住している場合、自分の行動の動機付けが相手から得られるタイプであり、相手に頼る傾向があると言えるかもしれません。

このように<自分>、<私的>、<他人>、<公的>のいずれに惑星が偏っているかを見ることで、人生の動機づけや目的をどこから得ているか、あるいはどの領域に最も時間を割いているかが分かります。

Edited by KantCity